

◆ 「ちば子ども学会」が誕生

～地域と子どもの問題を考えていく独自の活動に期待したい～

日本子ども学会の千葉県出身の会員の方々が中心になって、千葉県に「ちば子ども学会」が誕生しました。2005年4月23日に設立総会が行われ、千葉市立加曾利中学校の松尾忠正校長が初代会長に就任し、本年度から活動を開始しています。

設立総会では、日本子ども学会の小林登代表が「なぜ子ども学が必要か」というタイトルで、千葉大学教育学部の明石要一教授が「子どもの今が見えていますか」というタイトルで記念講演を行いました。

「ちば子ども学会」は日本子ども学会の考え方に共感した会員が中心になって設立したのですが、地方支部ということではなく、独自に会員を募集し、研究会などの活動を展開していきます。とくに、現代の子どもの普遍的な課題についてだけでなく、千葉の子どもの現状に焦点を当てて、地域密着型の学会をめざし、独自のテーマを探し出すことをめざします。

千葉県の東京近郊地区と房総地区とでは、同じ県内と思えないほど違いが大きく、自然環境や地域コミュニティのあり方で、子どもたちの育成にどのような差が生まれるのか、さまざまな生きたデータを集めることができます。

地域と子どもの問題を考えていく上で、都市部と郡部を抱えた千葉県にこのような学会の誕生した意義は大きいと思われます。



■ちば子ども学会

- 年会費 正会員2000円/学生会員500円/
賛助会員1万円(1口)
- 事務局 海浜打瀬小学校
- 連絡先 TEL 043(211)3330 FAX 043(211)3333
- ホームページ <http://hw001.gate01.com/chiba-kodomo/chiba-kodomo/>

◆ 10年目を迎えた「北海道子ども学会」

～日本で最初の「子ども学会」として活発に活動中～

「北海道子ども学会」は、子どもを広く総合的に捉え、子育てや実践を高めることをめざして、どのように子どもを見、接していけばよいのかを学んでいくことを目的に、1996年8月に設立した研究組織です。学会員も大学教員、小学校・中学校・高校の教員、児童福祉施設の関係者、幼稚園・保育園の教諭や保育士、医者、学生など広範囲にわたっており、現在の会員数は330名。「北海道発」の子ども学を提唱し、子どもの最善の利益や幸せについて考えています。

「北海道子ども学会」は、昨今の子どものさまざまな問題に触れて、かつてない子どもの深刻な事態に危機感をもち、この学会の設立を準備してきました。問題をためこんでいる難しい子や、ごく普通の子の危うさが指摘されていますが、それでも「その時代の社会や文化の中で子どもたちは懸命に生きている」ということが次第にわかってきました。こうした子どもたちの実態に着目しながら、子どもの真実を求め、子どもそのものに目を向け、子どものための環境に目を向けることを基本の姿勢として、活動しています。

研究大会は、毎年8月の第4土曜日～日曜日にかけて行われ、講演、シンポジウム、ポスターセッション、研究プロジェクトチームの研究報告などが行われています。第1回～第3回までは「子どもを知る」を中心テーマとして、研究大会活動以外に高校生やフリースクールの学生による意見表明フォーラムなども

開催されました。第4回～5回は児童虐待と子育てで支援を取り上げました。第7回から第8回は「子どもと家庭」、第9回～今年第10回「子どもと学校」を取り上げ、次年度の第11回～12回では、「子どもと地域」をテーマに開催を予定しています。

なお、2003年には児童虐待防止法見直し北海道集会を開催し、翌2004年に北海道子ども学会の提言を「衆議院青少年問題に係る特別委員会」に出しました。



■北海道子ども学会

- 発行物 年1回、研究大会集録を発行。
今後「子どもロジー」と名称を変更する予定。
- 年会費 一般5000円/学生2500円
- 連絡先 北海道子ども学会事務局長
中村孝博(札幌市立いらつく幼稚園)
〒004-0041札幌市厚別区大谷地東5丁目8-2
FAX 011(892)8597
E-mail: tnhokkai@ya2.so-net.ne.jp
- ホームページ <http://homepage2.nifty.com/kodomo-gakkai/>

◆第1回子ども学研究会開催

日本子ども学会では、2005年2月19日、東京都調布市の白百合女子大学において「第1回子ども学研究会(研究部会)」を開催いたしました。当日は宮下孝広教授(白百合女子大学)の開会挨拶のあと、以下8件の発表が行われ、夕方まで熱心な発表・討議が続きました。講演内容やディスカッションにつきましては、「日本子ども学会」のHPで掲載していますのでご参照ください。なお、日本子ども学会では今後も毎年、研究会を開催していく予定です。

【発表演題】

- 「デザインプロセスと脳の働き——総合学習のためのノート」
稲葉武司(建築と子供たちネットワーク)
- 「新しい遊びの空間デザイン——スヌーズレンの紹介」
山中裕子・小菅秀康(日本スヌーズレン協会)
- 「Family Ensemble :
子どもの楽器練習意欲促進のための連弾支援システム」
大島千佳((株)国際電気通信基礎技術研究所 メディア情報科学研究所)
- 「子どもが支援者として関わる学びの場のデザイン :
MuuSociaの活動報告」
後安美紀(ATRネットワーク情報学研究所)
- 「Playshop Revisited」
上田信行(同志社女子大学教授)、
宮田義郎(中京大学情報科学部メディア科学科)
- 「夜間におよぶ長時間保育のケア・デザイン——
5年間の追跡研究による科学的根拠を踏まえて」
安梅勅江(浜松医科大学医学部)
- 「生きる力を育てる「じゃれつき遊び」」
井上高光(さつき幼稚園)
- 「ママネット: ITを活用した子育て支援環境デザイン」
竹村真一(京都造形芸術大学)



◆「子ども学」に関連した学部・学科のある大学・短期大学

ここ数年で、「子ども学」という言葉は急速に広まっています。インターネットでも「子ども学」をうたったサイトが次々に開かれていますし、大学などが「子ども学」に関連した学部や学科を相次いで創設する動きも目だっています。2006年4月開講のものも含め、「子ども学」に関連した学部や学科のある大学・短期大学をご紹介します。

目白大学	短期大学部子ども学科	東京都新宿区	奈良女子大学	文学部「子ども学」プロジェクト	奈良県奈良市
東京成徳大学	子ども学部子ども学科	東京都北区	甲南女子大学	国際子ども学研究センター	兵庫県神戸市
白梅学園大学	人間学部現代子ども学科	東京都小平市	甲南女子大学	総合子ども学科	兵庫県神戸市
東京純心女子大学	現代文化学部子ども文化学科	東京都八王子市	神戸海星女子学院大学	文学部心理子ども学科	兵庫県神戸市
金城学院大学	人間科学部現代子ども学科	愛知県名古屋市	中国学園大学	子ども学部子ども学科	岡山県岡山市
名古屋学芸大学	ヒューマンケア学部子どもケア学科	愛知県日進市	梅光学院大学	子ども学部子ども未来学科	山口県下関市
東海女子大学	子ども学科	岐阜県各務原市	活水女子大学	健康生活学部子ども学科	長崎県・長崎市
同志社女子大学	現代社会学部現代子ども学科	京都府田辺市	鹿児島純心女子大学	国際人間学部子ども学科	鹿児島県川内市
東大阪大学	子ども学部子ども学科	大阪府東大阪市			